

第 5 0 回（平成 2 9 年度）岡山県三木記念賞受賞者決定  
－授与式を挙ります－

### 1 事業の概要及び経過

#### (1) 岡山県三木記念事業

故 岡山県知事三木行治氏が受賞されたマグサイサイ賞の賞金等を原資とした基金により、地域社会の発展に貢献した者を顕彰するものです。

なお、第 1 回は昭和 4 3 年で、本年度が第 5 0 回となります。

#### (2) 受賞者決定までの経過

- ・ 4 月 1 7 日（月） 候補者の募集開始
- ・ 5 月 1 6 日（火） 推薦締切り ※候補者数 1 1 人
- ・ 7 月 4 日（火） 第 1 回運営審議会……受賞候補者選考の諮問
- ・ 7 月 2 1 日（金） 第 2 回運営審議会……受賞候補者の選考及び答申

### 2 岡山県三木記念賞受賞者（表彰状・メダル及び賞金 3 0 万円）

氏 名	年 齢	役 職 等
しん けんじん 沈 建 仁	5 5	岡山大学異分野基礎科学研究所 教授
たけうち まさひこ 竹 内 昌 彦	7 2	元県立岡山盲学校 教頭
もり かずとし 森 和 俊	5 9	京都大学大学院理学研究科 教授

### 3 授与式

- (1) 日 時 平成 2 9 年 8 月 3 1 日（木） 1 6 時 3 0 分から
- (2) 場 所 ルネスホール（岡山市北区内山下 1 - 6 - 2 0）
- (3) 出 席 者 受賞者、知事、議長、過去の受賞者等 約 4 0 名

# 三木記念賞

岡山市北区野田

しん けんじん

沈 建仁 (55歳)

## 1 主な経歴

- 平成 2年 3月 東京大学大学院理学研究科博士課程修了 (理学博士)
- 平成 2年 4月 理化学研究所太陽光エネルギー研究グループ  
基礎科学研究員 (平成5年3月まで)
- 平成 5年10月 理化学研究所太陽光エネルギー研究グループ  
研究員 (平成9年9月まで)
- 平成 9年10月 理化学研究所播磨研究所 前任研究員 (平成15年3月まで)
- 平成15年 4月 岡山大学大学院自然科学研究科 教授 (平成28年3月まで)
- 平成25年 4月 岡山大学大学院自然科学研究科 光合成研究センター  
センター長 (平成28年3月まで)
- 平成28年 4月 岡山大学異分野基礎科学研究所 教授、副所長 (現在に至る)

## 2 功績の概要

氏は、植物の光合成において、最初に起こる「太陽光を利用した水分解・酸素発生反応を司っている光化学系IIタンパク質複合体の構造と機能」について数々の成果をあげており、平成23年のNature誌における発表は、Science誌の2011年世界十大成果の一つに選出されるなど、同分野に大きなインパクトを与えた。さらに、光合成において光エネルギーを極めて高い効率で吸収し、伝達する機能を持っている光化学系Iタンパク質複合体の構造を解析し、2015年Science誌に発表するとともに同誌の表紙を飾っている。一連の成果は天然光合成の仕組み解明につながるだけでなく、太陽光エネルギーを高効率に利用する人工光合成の開発にも重要な知見を提供するものである。

氏のこれまでの成果に対して、日本光合成学会特別賞 (平成24年)、2012年度朝日賞、第71回山陽新聞賞 (平成25年)、日本光生物学協会協会賞 (平成28年)、日本結晶学会西川賞 (平成28年)、内閣総理大臣表彰「みどりの学術賞」 (平成29年) など多くの賞が授与されている。

氏は、多くの国際・国内学会・シンポジウムに組織委員会委員として参加するなど、活発な学会活動を行っている。また、その卓越した研究業績を活かして、数多くの大学院生の研究を指導し、当該分野において優れた人材を輩出するなど、世界の光合成研究をリードしている。これらの活動の功績は誠に顕著である。

# 三木記念賞

岡山市中区八幡東町

たけうち まさひこ

竹内昌彦（72歳）

## 1 主な経歴

- |       |    |                           |
|-------|----|---------------------------|
| 昭和43年 | 3月 | 東京教育大学盲学校教員養成課程卒業         |
| 昭和43年 | 4月 | 岡山県立岡山盲学校 教諭（平成11年3月まで）   |
| 平成11年 | 4月 | 岡山県立岡山盲学校 教頭（平成17年3月まで）   |
| 平成17年 | 4月 | 岡山県立岡山盲学校 講師（平成28年3月まで）   |
| 平成28年 | 5月 | 社会福祉法人岡山ライトハウス 理事長（現在に至る） |

## 2 功績の概要

氏は、岡山盲学校の教師としての仕事の傍ら、西日本を中心に25年間で約2,200回もの講演活動を行い、障害のある方への人権理解を訴えてきた。この講演によって、小学生から高齢者まで幅広い層の人々に、前向きに生きていく勇気を与え続けている。そして、講演会に感銘を受けた岡山市内の市民が中心となり、著書「見えないから見えたもの」が映画化され、県内外の多くの学校や施設で上映されるなど、広がりを見せている。

また、モンゴルとキルギスに視覚障害のある方のための職業訓練学校を設立したほか、経済的な理由で手術が出来ないまま失明していく子どもたちを救いたいと、平成28年度に「ヒカリカナタ基金」を立ち上げ、モンゴル、キルギスの子どもたちに治療費を援助し視力を回復させるなど、開発途上国での視覚障害のある方への支援活動を行っている。

さらに、点字ブロックが世界で初めて敷設された岡山市中区原尾島に「点字ブロック世界発祥の碑」を建立し、点字ブロックが岡山発祥であることを認知させるとともに、その後も点字ブロックを守る会の代表として、点字ブロックへの理解を深める活動を全国に向けて展開している。

以上のように、日本はもとより世界の視覚障害のある方に職業自立の機会を与えるなど、その功績は誠に顕著である。

# 三木記念賞

京都府京都市右京区

もり かずとし

森 和 俊 (59歳)

## 1 主な経歴

- 昭和56年 3月 京都大学薬学部卒業
- 昭和58年 3月 京都大学大学院薬学研究科修士課程修了
- 昭和60年 3月 京都大学大学院薬学研究科博士後期課程退学
- 昭和60年 4月 岐阜薬科大学 助手 (平成元年3月まで)
- 昭和62年 9月 京都大学 薬学博士
- 平成元年 4月 米国テキサス大学 博士研究員 (平成5年9月まで)
- 平成5年10月 株式会社エイチ・エス・ピー研究所 研究員 (平成11年3月まで)
- 平成11年 4月 京都大学大学院生命科学研究科 助教授 (平成15年10月まで)
- 平成15年11月 京都大学大学院理学研究科 教授 (現在に至る)

## 2 功績の概要

氏は、日本の分子生物学分野を代表する研究者である。ホルモンやその受容体などのタンパク質が高次構造 (立体的な形) を形成する場である細胞内小器官「小胞体」の恒常性がどのように維持されるか、その仕組み (小胞体ストレス応答の分子構造) を解明した。この研究は、小胞体ストレスが関与していると考えられている糖尿病、アルツハイマー病、パーキンソン病などの様々な疾患の発症機構の解明、予防や治療法開発への応用が期待されており、国内外から注目されている。

氏は、その卓越した功績により国内外で極めて高い評価を受けている。平成17年アメリカの第4回ワイリー賞、平成21年カナダのガードナー国際賞、平成26年アメリカのアルバート・ラスカー基礎医学研究賞など数々の賞を受賞、平成27年には、ノーベル賞受賞の可能性が高いとされ、過去20年以上にわたる学術論文の被引用数に基づいて各分野の上位0.1%にランクする研究者の中から選出するトムソン・ロイター引用栄誉賞を受賞、平成28年6月には、日本学士院賞のその中でも特に権威のある恩賜賞を受賞している。

また、出身校である倉敷市立味野中学校や岡山県立倉敷青陵高等学校で講演会を行うなど、氏の活躍は文化学術の発展への貢献にとどまることなく、青少年健全育成・教育の側面からも賞賛されるべきものであり、その功績は誠に顕著である。